



恐竜のまちづくり最前線

パート 10



今後は恐竜化石を活かしたまちづくりを皆さんと一緒に考える取り組みが始まります。

恐竜発掘調査3年目 新たな化石みつける!

9月12日～30日にかけて、むかわ恐竜化石の第3次発掘調査が行われました。今回はこれまでの調査で回収しきれなかった化石がないことを確認するための小規模な補足調査です。あいにくの天候が続く中、計9日間、延べ49人が発掘に参加しました。

今回の調査では、むかわ恐竜のもともみられる骨化石が4点、歯が1点新たに見つかりました。これまでに恐竜の化石がまとまって発掘された地点から離れた場所での発見であることから、調査範囲を広げることで新たな部位の発見につながる可能性も出てきました。また二枚貝を中心に300点近くの化石を採集しました。

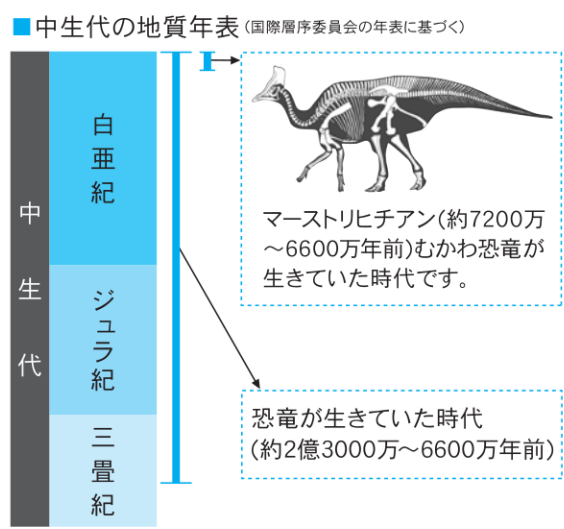
今回の調査期間中に発掘現場の見学ツアーも行われ、道内外から多くの方が見学に訪れました。



9月29日の発掘調査の様子

発掘現場の保全やさらなる活用に向けた検討は今後の恐竜のまちづくりにおいても重要なポイントになると考えられます。

コラム: マーストリヒチアン～むかわ恐竜が生きた時代～



恐竜は中生代三畳紀後期から白亜紀後期まで、1億6000万年ものあいだ地球上を支配し続けてきました。

むかわ恐竜が見つかったのは7200万年前に形成された地層です。このころは白亜紀後期の中でもマーストリヒチアンと呼ばれる時代で、恐竜時代の最後の600万年間にあたり、恐竜の絶滅と共にマーストリヒチアンという時代も終わりを迎えます。この600万年間は恐竜時代全体の3～4%にしかありませんが、私たちヒト(ホモ・サピエンス)が出現したのが約25万年前だと言われているから、途方もなく長い期間です。

日本では29の市町村から恐竜化石が発見されておりますが、マーストリヒチアンの地層から発見された恐竜化石は実は兵庫県洲本市とむかわ町の2例しか報告されておらず、こうした点からも今回のむかわ恐竜の発見はたいへん貴重なものであると言えます。

担当: 太田晶 (地域おこし協力隊)

人々の動き

平成27年9月30日現在

▶ 人口	8,818人 (-31)
▶ 男性	4,334人 (-22)
▶ 女性	4,484人 (-9)
▶ 鶴川地区	5,989人 (-26)
▶ 穂別地区	2,829人 (-5)
▶ 世帯	4,428世帯 (-10)

※()は前月比。住基法の改正により、外国人数を含みます。

平成27年9月1日～30日

出生	1人	死亡	8人
転入	11人	転出	35人

交通死亡事故ゼロ日数

平成27年9月30日現在



北海道におけるスリップ事故は、雪道に慣れていない初冬に多発しています。時間帯でみると午前5時から午前7時の時間帯で多く発生しています。また、4WD車による事故の割合も高いそうです。4WD車だからといって過信は危険です!常に路面状況の把握を!

